

運河を魚のゆりかごに 兵庫漁協の取り組み

人の手で壊された自然

昭和の高度成長期には、兵庫運河では貯木場として、大量の木材を浮かべていました。そのため光や潮の流れが阻まれるなどして、運河内には油やごみが浮き、生き物がすめない環境でした。昭和50年ごろから排水の規制なども進み、微生物の力などで徐々にきれいになり、水が透き通った今の状態になるまで約40年もかかりました。

兵庫運河では漁協だけでなく、地域の企業や地元の人たちも美しくするための取り組みをしています。みんなで協力して、生き物観察会も開いているんです



兵庫漁業協同組合 水産研究会の皆さん

アサリで海を美しく

兵庫漁協では、兵庫運河で平成24年からアサリの養殖を始めています。アサリなどの二枚貝には水をろ過し、きれいにする力があります。また、アサリの卵や稚貝は他の生き物の食料になるため、魚がすみやすい環境になります。

運河を魚が育つ海に

今年から、里山の手入れで出た竹や木の枝を運んできて、運河に沈めてイカやエビのすみかを作る実験を始めました。兵庫運河を、魚を捕るための場所ではなく、稚魚が育つための里海にすることを目指しています。



神戸の自然を知ろう

市は、生き物と共生できる都市を目指しています。市の取り組みや、環境の保護に取り組む団体の活動、神戸の希少な動植物の情報などをホームページで公開しています。さらに環境の保護に取り組む市民や団体が情報交換ができる「KOBEBE 生物多様生プラットフォーム」もあります。

見に行こう 無料

生き物観察



を記入し、摩町2-2モンテ3)必着。抽選371-1087)

保護者
を記入しブリッジバイクオリティ(〒655-12日(金)、⑤は6月26日(金)必着。抽選し環境未来館(〒651-2228見津が丘必着。抽選

兵庫運河
未来館

-6982)

電話番号、学生は学校名と学年

久元市長の 神戸を想う



自然と文化との関わり

生物多様性の保全は、珍しい生き物
し、そのほかの単にそれらを守ろう
ことに止まらず、我が国の文化や私
価値に関わる、大変大きな課題
かという気がいたします。日本の自然、
神戸にも広がる里山の自然は、人手
ことにより創り上げられ、こまめに
また各地域の多様な民謡習俗の
習慣など我が国固有の文化は、生き
びと自然との関わりの中で育まれて
私たちが日本人の価値観は、自然
密接に関わり、風土の中で、長い年月
形成されてきたのも知れません。私
人は、日本の自然と生態系の中を
きたのどす。このように考えれば、気
ほとどの時間とかけ、創り上げられ
国の生態系の中に全く異なる環境